

## 学校法人相模女子大学内部統制システム整備の基本方針

本法人は、令和 6 年 11 月 28 日、理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本法人の基本方針を以下のとおり決定した。

### 1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。(私学法 36 条 3 項 5 号)
- ② 寄附行為並びに「理事会運営規則」及び「評議員会運営規則」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。(私学法 36 条 3 項 5 号)
- ③ 寄附行為並びに常任理事会及び理事会決定に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。(私学法施行規則 13 条 3 号)
- ④ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「学校法人相模女子大学文書取扱規則」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。(私学法施行規則 13 条 1 号)

### 2. リスク管理に関する体制

- ① 「リスク管理規程」を整備し、リスク対応方法等を明確にした上、理事長を責任者とするリスク管理体制を構築する。(私学法施行規則 13 条 2 号)

### 3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員の職務の執行が法令並びに寄附行為に適合することを確保するための体制を整備するため、「コンプライアンス規程」を定める。(私学法第 36 条第 3 項第 5 号及び私学法施行規則 13 条 4 号)

### 4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- ① 監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- ③ 監事が職務を補助する職員（以下「補助職員」という。）を置くことを求めた場合、法人は、監事の求めを尊重し、補助職員を配置することを検討するものとする。(私学法施行規則 13 条 5 号)
- ④ 補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとする。(私学法施行規則 13 条 5 号)

- ⑤ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為に著しく違反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、業務執行理事及び監事に報告する。(私学法施行規則 13 条 8 号)
- ⑥ 理事又は職員等は、不正の目的なく監事に報告を行ったことを理由として不利益な取り扱いを受けないものとする。(私学法施行規則 13 条 9 号)
- ⑦ 監事が職務の執行について本法人に対して費用の前払又は償還、債務の債権者に対する弁済の請求をしたときは、本法人は、当該請求に係る費用又は債務が当該監事の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかにこれに応じるものとする。(私学法施行規則 13 条 10 号)
- ⑧ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
- ⑨ 本法人は以上の監査環境の整備について、「監事監査規程」に定めるものとし、同規定の改廃については監事と協議を行うものとする。

#### 5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

以上